

座長：田中 浩一 (JA 愛知厚生連 豊田厚生病院)

1. リアルタイム遠隔画像診断支援システムが迅速な検査結果報告に有効であった一例
松尾 早也伽 藤田医科大学ばんだね病院

2. 当院における心臓リハビリテーションでの臨床検査技師の役割
松本 和希 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

3. 多項目同時核酸増幅検査を活用した小児 ARI の感染対策および感染症情報発信の取り組み
荒川 純江 医療法人 大医会 日進おりど病院

4. 当院臨床検査室でのタスク・シフト/シェアの取り組み
齋藤 百代 医療法人 宝美会 総合青山病院

1

リアルタイム遠隔画像診断支援システムが迅速な検査結果報告に有効であった一例

◎松尾 早也伽¹⁾、杉浦 縁¹⁾、大澤 道子²⁾、佐藤 聖子²⁾、長瀧 和子²⁾、西井 智香子³⁾、星 雅人⁴⁾
藤田医科大学ばんだね病院¹⁾、藤田医科大学病院²⁾、藤田医科大学岡崎医療センター³⁾、藤田医科大学⁴⁾

【背景・目的】当院を含む関連病院間では、一定の精度と能力を持って正確な検査結果を報告することが求められる。当院では血液専門医や血液像判読に熟練した検査技師が常駐しておらず、血液像判読が困難な症例に対する迅速な対応が課題になっていた。そこで2023年10月から関連病院間にて「リアルタイム遠隔画像診断支援システム」の運用を開始した。本システムの活用により末梢血液像の迅速な結果報告および技師教育に寄与した症例を報告する。

【運用】鏡検用顕微鏡に接続したカメラ画像を Microsoft Teams を介して関連病院検査部と画像共有し、リアルタイムでの診断支援および教育指導を行う体制を構築した。なお、患者情報の流出防止のため情報管理規定を定め、院内個人情報管理委員会の承認を得て運用している。

【症例】70歳代女性、発熱、食欲不振にて受診し抗糸球体基底膜腎炎疑いにて血漿交換療法施行中であった。治療経過中、急激な Hb 低下と血小板数の減少、溶血所見を認めた。末梢血液像にて破碎赤血球が疑われたため、本システムを用いて連携病院に標本確認を依頼した。その結果、即

座に破碎赤血球(1+)の出現を確認し主治医に連絡することができ迅速な診断・治療の一助となった。

【結果・効果】破碎赤血球の判読には細胞の濃淡や繊細な形状を詳細にする必要がある。本システムは高精細な顕微鏡画像を共有できるため、鏡検に近い状態でのコンサルテーションが可能となった。

また、後日関連病院間で本症例の破碎赤血球を含む勉強会を実施した。指導前後で実施した赤血球形態の「目合わせ」では、正答率が50%から60%に向上し教育的効果も確認された。

【考察・結語】本システムは、専門医が不在施設における迅速かつ正確な結果報告を支援する有効なツールである。特に、リアルタイムな画像共有は動的な観察が必要な症例や緊急性の高い症例において有用性が高い。今後は、検体保存が困難な尿沈渣や体腔液など、他領域への応用の可能性を検討するとともに、施設間でのさらなる判読力量の統一を図ることが課題である。

連絡先：052-323-5667

2

当院における心臓リハビリテーションでの臨床検査技師の役割

◎松本 和希¹⁾、前岡 悦子¹⁾、中西 由香理¹⁾、宮島 悦子¹⁾、佐藤 彩¹⁾、柳沼 莉絵¹⁾、市川 菜摘¹⁾、郡司 昌治¹⁾
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院¹⁾

【はじめに】心臓リハビリテーション（以下、心リハ）は、心血管疾患患者の早期社会復帰および生活の質（QOL）向上を目的とした、運動療法、栄養指導、生活指導などを多職種が連携して行う包括的プログラムである。健康保険適用の心リハにおいて、施設基準として必須とされる職種は医師、看護師、理学療法士であり、臨床検査技師（以下、MT）が直接関与する施設は限られているのが現状である。当院では、MT が心肺運動負荷試験（CPX）を軸に心リハへ積極的に参画しており、その具体的な取り組みと役割について報告する。

【CPXにおけるMTの役割】CPXは運動処方を作成および心リハの効果判定において重要な検査である。当院では、MTが医師と共にCPXの実施およびデータ解析に携わり、得られた結果に基づき、患者個々の病態に応じた運動処方を提案している。運動負荷試験に習熟したMTの関与は、

【心リハにおけるMTの役割】当院では、MTが心リハ中のエルゴメータートレーニングを担当している。運動中の身体所見と運動処方との整合性を評価し、必要に応じて負荷量の是正を提案する。また、リアルタイムで心電図モニタリングを行い、心拍応答、虚血性変化、不整脈の出現について評価・記録を行っている。心電図波形に精通したMTが介在することで、心電図変化や致死的不整脈の前兆を早期に捉えることができ、運動療法に伴う心事故の予防に貢献している。

【まとめ】MTがCPXによる定量的評価に基づいた運動処方の提案を行い、専門性を活かした心電図モニタリングを実施しながら運動療法の一部を担うことで、心リハの質および安全性は向上すると考えられる。また、多職種チームにおけるMTの存在は、包括的心リハの充実に重要である。

3

多項目同時核酸増幅検査を活用した小児ARIの感染対策および感染症情報発信の取り組み

◎荒川 純江¹⁾、富田 雄介¹⁾、近藤 さおり¹⁾、小木曾 美紀¹⁾
医療法人 大医会 日進おりど病院¹⁾

【はじめに】新型コロナウイルス感染症の流行を契機に感染症法が改正され、流行初期の医療体制確保を目的として、都道府県と医療機関および病原体検査機関との間で医療措置協定を締結することが規定された。当院は地域医療の中核としての役割を果たすべく、令和6年4月1日より第二種協定指定医療機関として協定を締結し、ウイルス・細菌多項目同時核酸増幅検査装置「BioFire® SpotFire® システム」(以下、SpotFire)を導入した。今回、病児・病後児保育センター(以下、病児保育センター)利用児および小児急性呼吸器感染症(以下ARI)患者を対象として、SpotFireの結果を感染対策および感染症情報提供に活用した取り組みについて報告する。

【目的】病児・病後児保育環境下における小児ARIに対する感染予防策の実践と小児科受診者(特に保護者)への感染症発生动向の提供を通して、地域の流行状況を考慮した効果的な感染対策の推進を図ることを目的とする。

【対象】令和7年4月から12月までにSpotFireを実施した病児保育センター利用児および小児科患者、計555件。

【取り組み】①病児保育センターにおいて呼吸器症状を有する利用児には、利用前検査としてSpotFireを実施した。陽性率は94%、平均陽性項目数は2.1、ヒトライノウイルス/エンテロウイルスが季節を問わず50%以上を占めた。この検出状況を踏まえ、院内感染対策マニュアルおよび病児保育感染症ガイドラインに基づき、ICT(感染対策チーム)活動として感染対策指導を実施した。

②小児科検出結果に基づき、感染症情報として主要病原体の陽性率推移グラフや解説(感染経路、症状、感染対策など)をポスター化し、小児科待合および病児保育センター内に提示した。

【考察】病児保育センター職員との連携強化により、小児ARIに応じた感染対策を迅速に講じることが可能となり、保育環境における感染拡大防止に寄与した。またSpotFire導入により複合感染の把握が可能となり、検出結果の継続的な集計・評価は地域流行の早期把握に有用であった。多項目同時核酸増幅検査の活用は、地域医療における感染対策強化の基盤となると考えられた。連絡先:0561-73-7771

4

当院臨床検査室でのタスク・シフト/シェアの取り組み

◎齋藤 百代¹⁾、日高 裕矢¹⁾、澁屋 里都¹⁾、川崎 里美¹⁾
医療法人 宝美会 総合青山病院¹⁾

《はじめに》

2021年の医療法の改正により臨床検査技師を含むほかの医療専門職のタスク・シフト/シェアが推進された。今回、当院看護師の人手不足も重なり、内視鏡業務・持続皮下グルコース検査機器(以下リブレ)の装着に臨床検査室が加わる事となったので報告する。

《目的》

当院看護部は慢性的な人手不足で、なおかつ、外来部門に属する内視鏡室には時短勤務やパートタイムといった勤務体制の看護師が多く在籍しているが、内視鏡緊急時にも人手を確保するのは難しい状態であった。そこで看護部と業務をシェアする事になった。

《方法》

厚生労働省指定講習会受講後、医師および看護師の指導と協力の下で内視鏡業務・リブレの装着業務に従事した。内視鏡業務では主に、午後実施されている大腸内視鏡業務や内視鏡的胆管膵管造影検査等の介助を実施。リブレの装着では、装着後の説明まで実施した。

その後、外来看護師にアンケートを行い、現状把握と今後の課題の洗い出しを行った。

《結果》

内視鏡に従事する看護師からは、内視鏡に臨床検査技師が配置されている事は、細菌検査・病理検査の容器・提出方法等を迅速に聞く事ができると高評価だった。

《まとめ》

しかし、内視鏡検査では患者が急変する事もあり、それに迅速に対応する事ができず、苦慮する事があった、今後の課題として、急変時への臨床検査技師の役割を整備する必要がある。